

平成29年度(2017年度)
[平成29年4月1日～平成30年3月31日]

事業報告

目 次

平成 29 年度(2017 年度)事業報告 (総括)	1
・ 科学技術振興に関する活動の概要	2
- 1 . 研究助成	2
1 . 募集・応募・選出状況	2
2 . 助成件数の推移	3
3 . 第 33 回(2017 年度)マツダ研究助成一覧	4
4 . 第 33 回(2017 年度)マツダ研究助成奨励賞一覧	5
- 2 . 事業助成	6
1 . 募集・応募・選出状況	6
2 . 助成件数の推移	7
3 . 第 33 回(2017 年度)マツダ事業助成一覧	8
- 3 . 科学わくわくプロジェクト	9
・ 青少年健全育成に関する活動の概要	11
1 . 研究助成	11
1 . 募集・応募・選出状況	11
2 . 助成件数の推移	12
3 . 第 33 回(2017 年度)マツダ研究助成一覧	13
2 . 市民活動支援	14
1 . 募集・応募・選出状況	14
2 . 支援件数の推移	15
3 . 第 33 回(2017 年度)マツダ市民活動支援一覧	16
3 . 感動塾・みちくさ	17
4 . スタートラインプロジェクト	18
5 . 第 36 回講演会	19
6 . 大学寄付講義の実施概要	20
7 . 若者×ツナグバ	21
・ 管理事項の概要	22
- 1 . 役員等に関する事項	22
1 . 平成 30 年 3 月 31 日現在の役員・評議員の名簿	22
2 . 役員等の異動状況	22
- 2 . 職員に関する事項	23
- 3 . 理事会・評議員会等、主な活動事項	23
- 4 . 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項	24
- 5 . 登記に関する事項	24
- 6 . 附属明細書	24

平成29年度(2017年度)事業報告(総括)

当財団の設立目的である「科学技術の振興」、「青少年の健全育成」について次の活動を行いました。この活動のためマツダ株式会社から寄付を受け、低金利による運用収益低下の影響を最小限に抑えるとともに、最大限の社会貢献に資するべく創意工夫をしました。

まず、科学技術振興分野では、先進性・独創性のある研究に対して助成を行いました。特に、「若手研究者」、「萌芽的研究」、「循環・省資源への寄与」に継続して注力しました。また、青少年の科学離れへの対応として、小中高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し「科学するところ」を養うことを目指した事業「科学わくわくプロジェクト」を、広島大学等と連携して、実施しました。

次に、青少年健全育成分野では、市民活動との連携強化を図り、市民活動の活性化に寄与する実践的な研究に絞って助成を行いました。市民活動支援は、広島・山口両県における青少年健全育成のための地域に密着した活動に助成しました。体験を通して小学生に感動を与えるプロジェクト「感動塾・みちくさ」は、(公財)広島市文化財団と共同開催しました。講演会では、林 真理子を講師としてお招きし、「母からもらったもの」と題してお話をさせていただきました。1,300名の聴講者があり、好評を得ました。大学講義では、広島修道大学にて単位互換「ボランティア活動」を行いました。また、2013年度よりNPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で開始した「スタートラインプロジェクト」事業は、支援活動を充実させました。また、本年度より、青少年をめぐる社会的課題への取り組みとして、“若者自立支援”をテーマとして「若者×ツナグバ」を新たに実施しました。

科学技術振興関係

研究助成

機械、電子・情報、化学系材料、物理系材料の4分野を対象に31件3,100万円の助成を行いました。さらに、このうち特に優れた研究4件に「マツダ研究助成奨励賞」として副賞50万円、計200万円を追加助成しました。(国内/公募)

事業助成

研究者等による小中高の生徒を対象とした「科学体験」事業に15件200万円の助成を行いました。(中国地方/公募)

科学わくわくプロジェクト

教科書にとらわれない高度な科学体験により、小中高生の「科学するところ」を養うことを目指す「科学わくわくプロジェクト」を、広島大学等と連携して実施しました。(連携事業/参加者公募)

青少年健全育成関係

研究助成

青少年健全育成に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究6件に計400万円の助成をしました。(国内/公募)

市民活動支援

青少年の心豊かな成長の一助となる地域に密着した民間の非営利活動32件に計800万円の支援をしました。(広島県・山口県/公募)

感動塾・みちくさ

子どもたちが自然に触れ、体験や実験などを通して、科学に対する興味を深め、自分たちで創意工夫することにより科学を学ぶ心を養うことを目的に、(公財)広島市文化財団との共催で実施しました。(連携事業/参加者公募)

スタートラインプロジェクト

被虐待児等の自立を支援することを目的に、NPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実を支援する事業を実施しました。(連携事業/公募)

講演会の開催

当財団の活動主旨を広く知っていただく活動の一つとして、林 真理子氏を講師に迎え実施しました。

大学寄付講義

広島修道大学にて、単位互換「ボランティア活動」の講義を行いました。

若者×ツナグバ

若者が希望を獲得するための活動支援を、市民活動団体等との緩やかなネットワーク型の連携により実施しました。

事業の概要を以下に記します。

．科学技術振興に関する活動の概要

- 1 . 研究助成

1 . 募集・応募・選出状況

第33回(2017年度)は、以下により実施しました。

(1)募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

天然の資源に恵まれない我が国においては、科学技術の育成・振興が重要な課題です。このために、主として科学技術に関する学術研究に対して助成し、振興をはかることにより、調和のとれた科学技術の向上をめざし、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与することを目的としています。

(b) 助成対象

現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、機械、電子・情報、化学系材料、物理系材料の4分野に係わる先進的・独創的な研究。

- | | |
|----------------|------------------|
| (c) 募集方法 | 公募 |
| (d) 助成金総額 | 3,100万円 |
| (e) 助成件数 | 31件 (1件あたり100万円) |
| (f) 助成期間 | 1年または2年 |
| (g) 募集期間 | 2017年4月17日～5月31日 |
| (h) マツダ研究助成奨励賞 | |

マツダ研究助成対象の中から特に優れた研究に対して授与する。

副賞(追加助成金)	50万円/件
追加助成金総額・件数	200万円、4件

(2)応募状況

締切りまでに合計404件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- | | | |
|------------------|---------|------------|
| (a) 地域別 | ・ 中部以東 | 207件 (51%) |
| | ・ 関西以西 | 197件 (49%) |
| (b) 分野別 | ・ 機械 | 86件 (21%) |
| | ・ 電子・情報 | 88件 (22%) |
| | ・ 化学系材料 | 121件 (30%) |
| | ・ 物理系材料 | 109件 (27%) |
| (c) 若手研究者(35才以下) | | 141件 (35%) |

(3)助成対象者の選出

科学技術振興関係選考委員会(7月28日、29日開催)において慎重に審査された結果、助成候補として31件、研究助成奨励賞候補として4件が選出され、第31回理事会において正式に承認決定されました。

(4)助成贈呈書の贈呈

2017年10月に申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

2. 助成件数の推移 - 科学技術振興関係 -

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第33回) 2017年度	第32回 2016年度	第31回 2015年度
応募件数(件)	404	453	416
助成件数(件)	31	33	25
助成比率(%)	7.7	7.3	6.0
助成金総額(万円)	3,300	3,500	3,200

(地域別状況)

地域	2017年度		2016年度		2015年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
中部以東(件)	207	16	253	24	230	16
近畿(件)	80	6	82	5	96	4
中国・四国(件)	62	4	68	3	55	3
九州・沖縄(件)	55	5	50	1	35	2
合計(件)	404	31	453	33	416	25

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数

(分野別状況)

分野	2017年度		2016年度		2015年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
機械(件)	86	6(3)	104	8(5)	93	6(4)
電子・情報(件)	88	7(3)	100	7(2)	96	6(3)
化学系材料(件)	121	10(5)	131	10(8)	124	7(6)
物理系材料(件)	109	8(1)	118	8(6)	103	6(3)
合計(件)	404	31(12)	453	33(21)	416	25(16)

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数、分類は審査時
()内の数値は循環・省資源に寄与する研究で、内数

3. 第33回(2017年度)マツダ研究助成一覧

- 科学技術振興関係 -

助成対象研究の概要は、以下の通りです

印付きは循環・省資源に係わる研究

S印付きは研究助成奨励賞受賞

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【機械】		
選択的殺菌作用をもつマイクロ構造体の開発	袴田 昌高 京都大学 大学院エネルギー科学研究科准教授	100
<p>人体(ヒト由来細胞)にはなんら影響を及ぼさず、有害な細菌だけを死滅させるマイクロ構造体を開発する。申請者らが最近見出したナノポーラス金の抗菌性(J. Mater. Res., 掲載可)とマイクロ構造の細菌捕集性を活かし、これまでの化学的な手段(銀イオン、消毒剤等)と異なる機構での効率的な殺菌に挑戦する。研究成果の応用例として、例えば臭いの源となる細菌(表皮ブドウ球菌等)が繁殖しやすい空調装置などに本マイクロ構造を設置すれば、消臭効果を期待できる。</p>		
人工知能技術と生体反応計測技術を活用した学習型騒音・振動制御技術の研究	寺島 修 富山県立大学 工学部講師	100
<p>現在の騒音・振動制御技術は、それらを最小とすることが制御の目的となっている。しかし、個々人の置かれた環境、身体的状況によりこれらの最適値は異なり、実際には必ずしもそれらを最小とすることが最適制御とは限らない。 そこで本研究では、人工知能によるディープラーニング技術と生体反応計測技術を活用した、学習型の騒音・振動制御技術の開発に取り組む。これにより、人に合わせた騒音・振動の最適制御が可能となり、従来の最小化のための制御システムに比べて省資源化と省エネルギー化が期待できる。</p>		
自動振動ヒートパイプにおける液柱往復振動に伴い流路内に形成される液膜に関する研究	三浦 正義 神奈川大学 工学部特別助教	S 150
<p>電力不要で高効率な次世代熱輸送デバイスとして注目される自動振動ヒートパイプは、表面張力で形成された流路内の液柱が加熱部と冷却部の温度差に伴う蒸気圧力差により自動的に振動することにより熱を輸送する。この熱輸送性能予測において、液柱の往復振動に伴い流路内壁に形成される液膜が重要な役割を果たす。本研究では、この液膜挙動の詳細を明らかにするとともに、その予測ができるようにする。これにより自動振動ヒートパイプの正確な熱輸送性能予測を可能とし、自動振動ヒートパイプの実用化に寄与する。</p>		
年齢や使用言語に影響を受けない非言語的な性格検査の実現に向けたヒトの動作と性格の関係性に関する研究	日下田 淳 小山工業高等専門学校 助教	100
<p>ヒトが歩いたり、車を運転したりするときには、そのヒトの性格がその動きに反映されている。これは、経験的に明らかなことである。そこで、本研究では「飲み物を飲む」や「椅子に座る」といった普段の生活の中でよく行う行動とそのヒトの性格の関係性を明らかにする。具体的には、モーションキャプチャシステムを用いて測定したヒトの動作から求めた動作の特徴と性格検査の結果より、相関分析等の統計的手法を用いて、両者の関係性を解明する。</p>		
熱輸送コロイドの固液界面近傍における電気運動学的挙動が伝熱特性に及ぼす影響の解明	白井 克明 芝浦工業大学 工学部准教授	100
<p>本研究ではエマルションやナノ流体など熱輸送コロイドの電気運動特性がその伝熱特性に及ぼす影響の解明を目指す。コロイドは帯電した粒子が液体に分散したもので、伝熱の際の界面の1 μm以内の領域での流動挙動から電気運動特性を調べる。本研究では固液界面の液体側に僅か数百nm浸透するエバネッセント波を用いて界面極近傍のコロイド流動計測を実現する。電気運動学的特性の伝熱への影響とメカニズムが解明されれば、再生可能エネルギー導入拡大や未利用排熱活用に向けて、より高効率な熱輸送の実現に繋がる。</p>		
位相ダイナミクスに基づく固定および振動物体からの渦剥離の解析および制御	飯間 信 広島大学 大学院理学研究科准教授	100
<p>一様流中に置かれた固定または振動する円柱から発生する周期的な渦構造を極限周期軌道と捉え、その状態およびダイナミクスを振動位相理論に基づいて記述する。また、外力やトルクのような特徴的な外部摂動を用いた物体からの渦の剥離タイミングの制御や、周期外力への同期条件を調べる。同時に、位相ダイナミクスによる記述の適用範囲や感受性関数の挙動を調べ、その結果を渦と物体の相互作用という観点から流体力学的に解析し、応用に役立つように知見を整理する。</p>		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【電子・情報】		
光帰還注入同期半導体レーザー群を用いた高S/N光周波数コム発生法の研究	横田 信英 東北大学 電気通信研究所助教	100
高い信号ノイズ比(S/N)を有する光周波数コム発生技術はベタビット毎秒オーダの超大容量光通信システムにおいて必要不可欠であるが、光周波数コムスペクトルの平坦性、広帯域性、制御性、省電力性、低コスト性など、様々な要求をバランス良く満足することは困難であった。本研究では、光帰還によって注入同期された複数の半導体レーザーを利用した新しい光周波数コム発生法を提案し、上記の厳しい要求を満足可能な次世代光周波数コム光源の実現を目指す。		
有機/無機界面を有する極低電圧駆動フレキシブルトランジスタの安定化	藤井 菜美 奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科助教	100
人とネットワークのシームレスな接続を可能にするフレキシブルコンピュータを実現するための基盤研究として、低電圧駆動で安定なフレキシブルトランジスタを創製する。低温形成可能な酸化物質半導体とイオン液体を組み合わせた低電圧駆動フレキシブルトランジスタを実現し、この素子が有する有機-無機ハイブリッド界面の信頼性解析から劣化現象をモデル化する。有機材料と無機材料の界面反応の物理に迫り、素子の劣化抑制手法を提案・実施する。		
低コヒーレンスデジタルホログラフィを用いたマルチカラー3次元形状計測機構に関する研究	森 裕 香川大学 工学部助教	S 150
人は五感により様々な材料情報(形状、質感、色調など)を非常に高精度に認識することができる。この特性に基づくヒューマンセンタード・プロダクトデザインにおいて、製品の企画・設計段階から製作・検査段階におけるまで、複数の材料情報のパラメータを非破壊・非接触・非侵襲に同時計測する技術が重要となる。低コヒーレンスデジタルホログラフィはこれを解決するひとつの手法と考える。本研究では、物体3次元形状計測のフルカラー化の達成と計測精度の向上および高速・高解像度化に取り組む。		
レドックスフロー電池の充放電性能最大化を目的とした構造最適化	矢地 謙太郎 大阪大学 大学院工学研究科助教	100
近年、自然エネルギーを利用した発電システムの導入が世界規模で推進されている。一方で、生み出された膨大な電力の蓄電方法については、未だ有効な解決策が見出されていない。この課題に対し、将来の大規模蓄電システムの有力候補として、レドックスフロー電池(RFB)が注目を集めている。本研究では、RFBの電極に内蔵されたマイクロチャンネルの幾何形状について、数学的根拠に基づく最適な流路形状を数値解析によって導き出し、これまでにない革新的な設計案の創生を目指す。		
橋梁支承部付近の回転振動特性に着目した減衰特性および健全度評価方法の提案	竹谷 晃一 山梨大学 大学院総合研究部助教	100
社会インフラ構造物の適切な維持管理を行う上で、構造物の健全度を把握する指標として減衰振動特性は重要であり、その効率的な手段として複数台の振動センサを用いた構造物の動的挙動を計測・分析する常時モニタリングが注目されている。本研究は、多くの橋梁構造物で安全かつ容易にアクセス可能な支承部付近に発生する回転方向の挙動に着目し、回転振動データの分析とエネルギー的観点から機械学習を利用したアプローチによって減衰特性を把握し、その結果から橋梁の健全度を評価する手法を提案する。		
デュアル光コム・ビームを用いたスキャンレス・フルフィールド共焦点蛍光顕微鏡の開発	水野 孝彦 徳島大学 大学院社会産業理工学研究部特任研究員	100
生きたまま生体の生命現象を観察するにあたり、共焦点顕微鏡は高い空間分解能と迷光除去能力を有し、かつ3次元イメージングが可能という大きな優位性を有する。しかし従来法では焦点スポットの機械的走査が必要なため高速計測が困難であり、振動などの環境外乱に対する脆弱性に繋がっていた。本研究ではデュアル光コム・ビームと波長/2次元空間変換を併用したスキャンレス共焦点蛍光顕微鏡法を開発する。これにより共焦点顕微鏡法の優位性を保ったまま高速計測が可能かつ環境外乱にロバストな顕微鏡法を実現する。		
シューマン共鳴を用いた太陽フレアの特定及び地球への影響調査に関する研究	池田 昭大 鹿児島工業高等専門学校 一般教育科講師	100
地球電離圏と地表の間で生じる電磁波の共鳴はシューマン共鳴(SR)と呼ばれ、地球の環境変化を反映する現象として知られている。地球に大きな影響をもたらす太陽フレアは、地球電離圏の異常電離による電波障害(デリンジャー現象)や、GPSの測位誤差を生じさせる要因を作り、宇宙災害という観点からも、太陽活動をモニターする事は非常に重要である。本研究では、SRを用いた太陽フレアの検出及び、地球電離圏への影響を調査し、SRを太陽フレアのモニターとして新たに提示する。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【化学系材料】		
半導体ナノ粒子の三次元集合構造制御による新規人工光合成モデルの構築	石田 洋平 北海道大学 大学院工学研究院助教	100
植物の光合成ではクロロフィル色素の規則配列により高効率な光エネルギー捕集・伝達を達成しており、この機能がなければ、光密度の薄い太陽光下では二酸化炭素還元、糖生成が進行しない。我々が太陽光を新しいエネルギー源として利用するにあたり、いかに効率的に光エネルギーを集め伝達するか、が最も重要な課題である。本研究では、天然光合成系のような秩序立った集合構造を発光性半導体ナノ粒子に適用することでナノ粒子の分子としての性能を引き出し、全く新しい人工光合成モデルを提案する。		
ホスト-ゲスト相互作用を利用した強靭性イオン伝導ゲルの作製	小林 裕一郎 大阪大学 理学研究科特任助教	100
非共有結合の一種であるホスト-ゲスト相互作用を用いて、機械強度とイオン電導性のTrade-off関係を解消する革新的材料を創製する。イオン電導材料は電池の電解質に用いられており、現在は液体が用いられているが、漏出などの危険性があるため固体化が望まれている。しかし、固体は一般的にイオン電導性が低い。本申請では、液体と固体の間物質であるゲルを用い、一般的な共有結合を架橋点に持つゲルではなく、非共有結合を架橋点に持つゲルを作成し、高伸縮・高強度かつ高イオン伝導性という非連続な機能向上を実現する。		
シクロアルカンを選択的に認識するチャンネル構造を有するチアカリックスアレーン有機結晶の創製	山田 学 秋田大学 大学院理工学研究科講師	100
アルカンやシクロアルkanは、石油化学や様々な有機・高分子材料の開発において極めて重要な出発原料である。しかし、原油精製によるアルkan・シクロアルkanの分離には大量のエネルギー消費を必要とするため、エネルギー消費の低減を可能とする選択性に富んだ吸着剤の開発が要求されている。本研究では、含硫黄環状化合物のチアカリックスアレーンが集合することで創出される吸着サイトを利用したシクロアルkanを選択的に吸着・分離できる結晶の創製を目指し、シクロアルkanの吸着挙動を解明する。		
超高延伸性と強靭性を両立させた自己修復性エラストマー	三輪 洋平 岐阜大学 工学部准教授	100
柔軟な高分子の架橋体であるエラストマーは、その柔らかな感触、衝撃吸収性、および優れた伸縮性のために、自動車材料や日用品をはじめとして、ひろく利用されている。しかし、エラストマーの強靭性と伸びを両立させることは難しく、また、生物の皮膚のように傷が自然と治ることもない。これに対して、我々は傷に対する自己修復性を有し、かつ、強靭性と超高延伸性を両立させたエラストマーを開発した。本研究では、このエラストマーの分子構造と材料特性の詳細な相関関係を解明し、材料設計指針の確立をめざす。		
階層的多孔構造を有するヘテロ原子ドーパカーボン電極の開発	長谷川 丈二 九州大学 大学院工学研究院助教	100
カーボン材料は、高い比表面積と優れた導電性を有し、電極材料として広く用いられている。また、窒素などのヘテロ原子をドーピングすることで、酸素還元反応などの優れた触媒能を発現することが知られており、白金をはじめとするレアアースの代替触媒として期待されている。しかし、電気化学特性や触媒能の向上には、ヘテロ原子のドーピングだけでなく、カーボンの細孔構造制御が重要となる。本研究では、優れた触媒能を有するカーボン電極の創製を目指し、ヘテロ原子ドーパカーボンの細孔構造の精密制御を行う。		
鎖の撚りあわせにより可逆に剛直性が変化する機能性ナノシートの開発	松岡 亮太 筑波大学 数理物質系助教	S 150
単分子レベルの薄さでありながら魅力的な機能を持つナノシートは、省資源化、製品の小型化の観点から次世代材料として注目を集めている。本研究は三重に束ねた分子鎖ユニットを構成要素として用い、鎖の撚りあわせにより可逆に剛直性・機能が変化する多機能性ナノシートを創製する。三重鎖は金属イオンの添加によりねじれ、ナノシート骨格を剛直化させると同時に金属錯体特有の機能を発現する。逆に金属イオンを取り除きらせんをほどくと骨格に柔軟性が生まれ、ナノシートは高い分散性を獲得する。この相互変換により、従来のナノシートの課題である機能性と易加工性の両立を実現する。		
量子構造化された高分子ミセルの構築	藤井 翔太 北九州市立大学 国際環境工学部特任研究員	100
ミセルの会合数とそのパッキング構造に分布や乱れがない、量子化された高分子ミセル構造の創成を目指す。これには、我々が新たに見出した、ミセルの会合数が少なくなると会合数が量子化する現象(プラトニックミセルと命名)を利用する。高分子鎖ならではの性質(温度応答性などの外部刺激応答性)とプラトニック性(不連続な会合数でかつプラトンの正多面体の面数と一致)を組み合わせることでこれまでにないスマートマテリアルとしての新規機能発現を開拓する。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
ポリマー材料中におけるカーボンドットのマカノクロミズム機能探索	川村 隆三 埼玉大学 大学院理工学研究科助教	100
本研究では、安定な蛍光を示すカーボンドットをポリマー材料に組み入れることで、力学センサーとしての機能を探索し、ひずみに応じた蛍光の変化を示す「マカノクロミズム」発現の可能性を検証する。安価な材料で簡単に合成できるカーボンドットを共重合可能な材料に加工することで、様々なポリマー材料に適用して力学状態を可視化できる手法の確立を目指す。本研究で得られる成果は、「力学状態の可視化」を実現することで3Dプリンターなどの新しい立体造形技術の発展への寄与が期待できる。		
高性能分離膜応用を目指した多孔性分子ナノシートの液相ボトムアップ創製	牧浦 理恵 大阪府立大学 大学院工学研究科准教授	100
高選択性・高透過性を併せ持つ分離膜の開発は、物質の分離・精製操作が必須とされる環境、エネルギー、化学工業において強く望まれている。本研究においては、究極の分離性能実現のための理想的な膜、すなわち規則ナノ細孔を有する極薄ナノシートを開発する。そのために、異種界面における特異反応場を利用して結晶性ナノシートの作製に成功してきた申請者の実績にもとづき、気相と液相の界面反応により、構造設計性に富む有機分子をボトムアップ式に二次元に連結させ、狙いのナノ細孔構造を有する分子ナノシートを創出する。このナノシートは、従来の有機ポリマー分離膜の性能を大きく凌駕し得るものである。		
層状複合アニオン化合物における特異なインターカレーション機構の解明	矢島 健 東京大学 物性研究所助教	100
近年、層状複合アニオン化合物T ₂ PTe ₂ (T = Ti, Zr)において、重金属元素(Cu, Zn, Cd)のみが選択的かつ低温でインターカレーションされることが見出された。これは従来の層状化合物では見られない特異な挙動であり、イオン伝導体などへの応用が期待されるが、その起源については明らかになっていない。本研究は層状複合アニオン化合物において見られる元素選択的かつ低温で起こるインターカレーションの起源の解明を目的とする。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【物理系材料】		
電気二重層トランジスタを利用した光誘起近藤効果の普遍性の研究	北川 二郎 福岡工業大学 工学部教授	100
光誘起近藤効果という磁気の新しい光制御法を提案し、希土類半導体において検証に世界で初めて成功した。光誘起近藤効果は新物理現象で、その普遍性を確かめる必要がある。しかし、特に物質の光キャリア寿命が短いと、高価な装置が必要となることが問題である。申請者は安価な研究手法として、電気二重層トランジスタの利用を着想した。本研究の目的は、電気二重層トランジスタを利用して光誘起近藤効果の普遍性を確かめることである。本研究により、光磁気記録装置や光変調器などの省電力化が期待できる。		
磁性錯体における新規な多自由度クロスオーバー現象の創出と設計指針の確立	岡林 潤 東京大学 大学院理学系研究科准教授	100
磁性錯体において、高スピン - 低スピン間のスピクロスオーバーの研究が盛んに行われている。本研究では、シアノ基によって架橋されたFe-Au多核磁性錯体を中心に、格子歪が誘起する新規な多自由度クロスオーバー現象の創出を目指す。Feの結晶場とAuのスピン軌道相互作用の相乗効果による「スピン軌道クロスオーバー」の全く新しい概念を提案し、実証する。そして、外部摂動によって配位子場とスピン軌道相互作用の双方について可逆的な操作を実現させ、スピンと軌道の操作方法を確立する。		
酸化物の電界物性制御と不揮発性ナノデバイスへの応用に関する研究	藤原 宏平 東北大学 金属材料研究所講師	100
多彩な電気・磁気・光学特性を示す酸化物が次世代エレクトロニクスの担い手として囑望されている。その実現には、電界効果トランジスタ方式の電界物性制御が不可欠であり、優れた電界応答特性を示すゲート絶縁体/酸化物界面の形成が鍵となる。本研究では、フッ素樹脂や酸素イオン導電体をゲート絶縁膜に用いた電界効果デバイスを提案する。さらに、それらの原理を不揮発性デバイス応用やナノスケールでの物性制御へと展開し、革新的デバイス創出への道筋を切り拓く。		
室温有機磁石の実現に向けた形状設計型ラジカルによる磁性体デザイン	山口 博則 大阪府立大学 大学院理学系研究科准教授	100
有機分子は数10万種類にも及び多様性を備えているが、室温有機磁石の構築には展開できていない。申請者は先行研究として、形状設計型ラジカルを活用した緻密な分子設計によって、多彩な新規磁性体の実現に成功してきた。それらの研究を通して、有機磁石の必須条件となる磁気状態の形成において、これまでにないレベルでの有効性が実証された。本研究では、分子設計をより緻密に展開した高精度な磁性体デザインに取り組む。それによって、3次元的な強磁性磁気状態の構築を可能にし、室温有機磁石の実現に繋げる。		
ジュール熱を利用した革新的インダクタ開発	田辺 賢士 名古屋大学 大学院理学研究科助教	100
インダクタは抵抗やキャパシタと並び基本受動素子である。しかしその構造は100年以上の間、コイル型構造から大きな進歩はなく、比較的大きな容積を必要とする。そこで本研究は非線形伝導に基づいたインダクタ開発を行う。先行研究ではCa ₂ RuO ₄ を用いて40 Hを超えるインダクタンスの観測に成功している。本研究ではより高い周波数でのインダクティブ特性の発現を目指す。ジュール発熱による非線形伝導は素子の熱容量で決まるため、広帯域で使用できるマイクロスケールインダクタの開発に挑む。		
フレキシブル基板上での高機能デバイス実現に向けた低温プロセス技術の開発	酒池 耕平 広島商船高等専門学校 准教授	S 150
曲げられるディスプレイや太陽電池に代表されるフレキシブルエレクトロニクスの飛躍的な進歩を実現するには、フレキシブル基板上で高性能電子デバイスを製作する必要がある。しかしながら、耐熱温度が低いフレキシブル基板上で高温プロセスが必要な高性能シリコン(Si) デバイスを実現することは非常に困難とされている。そこで、この課題を解決する為に、中空構造Si膜を用いた低温転写技術を提案し、本転写技術を応用することでフレキシブル基板上に高性能電子デバイスの作製が可能であることを実証してきた。本研究では、これまでの研究実績を基に、高機能フレキシブルデバイス実現に向けた低温プロセス技術の開発を行う。		
表面微細周期構造形成による放射線検出用蛍光体の高性能化	三浦 健太 群馬大学 大学院理工学部准教授	100
医療分野で癌診断等に用いられるPETの研究開発においては、次世代型のTOF(Time of Flight)-PETが目ざされており、TOF-PET用シンチレータとして、Lu ₂ SiO ₅ :Ce(LSO)結晶が多く用いられている。本研究では、微細周期構造をLSOシンチレータ結晶の表面に形成することで、放射線照射時に発生する蛍光のLSO結晶内部での全反射の抑制を試みる。これにより、光センサーへの蛍光の到達量や到達時間の改善が見込まれ、TOF-PETの時間分解能の向上が期待できる。		
ナノピラー型磁性細線を利用した大容量三次元磁壁移動型細線メモリの実現の試み	黒川 雄一郎 九州大学 大学院システム情報科学研究科助教	100
高度情報化社会に対応するため、データ保管時の電力削減は急務である。保管時の電力を削減できる新規記録素子として磁壁移動型細線メモリが提案されている。これは、0に対応する磁化状態を持つ磁区を磁性細線上に配置し、磁区を電流を用いて移動させることで、記録再生を行うメモリである。しかし磁壁移動型細線メモリの学術的側面は広く研究される一方で、実用化に必須の高記録密度化の研究はあまり行われていなかった。本研究では従来にはないナノピラー型磁性細線を用いることで大容量細線メモリを開発する。		
合計	31件	2017

第33回(2017年度)マツダ研究助成奨励賞一覧 - 科学技術振興関係 -

マツダ研究助成選考委員奨励賞は、マツダ財団設立30周年を記念して2014年度より新設されました。科学技術振興関係の助成対象の中から、若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした4件の研究に対して授与されるもので、副賞として研究助成金50万円が追加助成されます。

(註)研究代表者役職は応募時

分野	研究題目および選考理由	研究代表者
機械	<p>自励振動ヒートパイプにおける液柱往復振動に伴い流路内に形成される液膜に関する研究</p> <p>高効率な次世代熱輸送デバイスとして注目される自励振動ヒートパイプの熱輸送性能は、流路内壁に形成される液膜の影響を受けるがその挙動は十分に解明されていない。本研究は、液膜挙動の詳細な可視化や定量計測を行い、それに基づいて高精度な液膜モデルを構築することで、熱輸送性能の正確な予測が期待できる。自励振動ヒートパイプの実用化に向け大きな貢献が可能な優れた研究内容に対して奨励賞を贈呈する。</p>	<p>三浦 正義 神奈川大学 工学部特別助教</p>
電子・情報	<p>低コヒーレンスデジタルホログラフィを用いたマルチカラー3次元形状計測機構に関する研究</p> <p>本研究は、低コヒーレンスデジタルホログラフィにおいて、3次元物体形状計測のフルカラー化、および計測の高解像度化・高速化によるスペクトル特性、反射光強度特性の同時計測技術を提案するものである。これによって、非破壊・非接触・非侵襲なフルカラー3次元物体形状計測手法が実現でき、産業分野、医療分野、農業分野など幅広い分野への応用が期待できる。その先進的、且つ発展性の高い研究内容に対して、奨励賞を贈呈する。</p>	<p>森 裕 香川大学 工学部助教</p>
化学系材料	<p>鎖の撚りあわせにより可逆に剛直性が変化する機能的ナノシートの開発</p> <p>単分子レベルの薄さでありながら魅力的な機能を持つナノシートは、省資源化、製品の小型化の観点から次世代材料として注目を集めている。本研究は三重に束ねた分子鎖ユニットの撚り合わせにより可逆に剛直性・機能が変化する多機能的ナノシートを創製するものであり、三重鎖は金属イオンの添加によりねじれ、ナノシート骨格の剛直性を変化させるという点に独創性および新規性がある。今後の研究成果が大いに期待でき、その優れた研究内容に対して奨励賞を贈呈する。</p>	<p>松岡 亮太 筑波大学 数理工学系助教</p>
物理系材料	<p>フレキシブル基板上での高機能デバイス実現に向けた低温プロセス技術の開発</p> <p>本研究提案の低温転写技術は、既存技術の延長ではなく、世界で実施事例のない革新的な研究であり、これまでの研究成果を踏まえ技術課題、研究計画が明確で実現性が非常に高いと予想される。本研究の応用先として、生体情報を高い精度で収集できるデバイスの実現、高度な医療技術への展開が期待でき、日本発、広島発の革新的な技術の実現にむけ、その優れた研究内容に対して奨励賞を贈呈する。</p>	<p>酒池 耕平 広島商船高等専門学校 准教授</p>

- 2 . 事業助成

1 . 募集・応募・選出状況

第33回(2017年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

学会・研究機関等が中国地方で開催する小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する研究会等で、科学技術振興に有意義と認められるものに対し、その費用の一部もしくは全額を助成します。

(b) 助成対象

中国地方の大学(含、附属研究機関)、高等専門学校、民間の非営利団体に所属し、申請事業の開催責任者または出版物の主なる著者によって、2017年6月から2018年5月に実施される

- ・ 「科学体験」事業の開催
- ・ 学会・シンポジウム等の「科学体験」推進に関する研究会の開催
- ・ 「科学体験」に関する研究成果出版物の刊行、教材等の試作
- ・ その他、「科学体験」に関し財団が有意義と認めるもの

(c) 募集方法

公募

(d) 対象地域

中国地方

(e) 助成金総額

200万円

(f) 助成件数

10～15件

(g) 1件当たり助成金額

10～20万円

(h) 助成期間

2017年6月から2018年5月

(i) 募集期間

2017年4月3日～5月8日

(2) 応募状況

本年度は、21件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別

・鳥取県	0件	・広島県	4件
・島根県	7件	・山口県	7件
・岡山県	3件		

(b) 分野別

(1) 体験事業の開催	20件
(2) 研究会等の開催	1件
(3) 成果出版物の発刊・教材等の試作	0件
(4) その他	0件

(3) 助成対象者の選出

マツダ事業助成 - 科学技術振興関係 - 選考委員会(5月25日)において慎重に審査された結果、助成候補として15件が選出され、第29回理事会(5月29日開催)において報告されました。

2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第33回) 2017年度	第32回 2016年度	第31回 2015年度
応募件数 (件)	21	31	29
助成件数 (件)	15	15	15
助成比率 (%)	71	48	52
助成金総額 (万円)	200	200	200

(地域別状況)

地 域	2017年度		2016年度		2015年度	
	件数	助成件数	件数	助成件数	件数	助成件数
鳥 取 県 (件)	0	0	0	0	0	0
島 根 県 (件)	7	3	9	4	11	2
岡 山 県 (件)	3	3	5	3	3	2
広 島 県 (件)	4	4	8	5	8	7
山 口 県 (件)	7	5	9	3	7	4
合 計 (件)	21	15	31	15	29	15

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

(分野別状況)

分 野	2017年度		2016年度		2015年度	
	件数	助成件数	件数	助成件数	件数	助成件数
(1)体験事業の開催 (件)	20	15	27	14	27	15
(2)研究会等の開催 (件)	1	0	4	1	0	0
(3)成果出版物の発刊 ・教材等の試作 (件)	0	0	0	0	1	0
(4) その他 (件)	0	0	0	0	1	0
合 計 (件)	21	15	31	15	29	15

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

3. 第33回(2017年度)マツダ事業助成一覧 - 科学技術振興関係 -

事業名 ([]内は小・中・高生の参加者数)	開催地	事業責任者 (役職は応募時)	実施期間	助成金額 (万円)
地域発・課題探求型授業「インキュベーションワーク」と連携したサイエンスショーと科学・工作教室 参加者(総人数)950名 [内、790名]	呉工業高等専門学校 (呉市)	山脇 正雄 呉工業高等専門学校協働研究センター長	2017/5/27 ~ 2017/12/16	15
赤磐市を地球科学する 参加者(総人数)150名 [内、140名] 講演:8	高陽中・吉井中・城南小、周匝周辺の野外(赤磐市)	乙藤 洋一郎 NPO法人 地球年代学ネットワーク(jGnet) 周匝研究所所長	2017/6/1 ~ 2018/3/31	16
周南地域における橋守活動を通じたインフラメンテナンステキ体験 参加者(総人数)120名 [内、30名] 講演:1	周南地域の道路・橋梁および徳山高専メディアホール	海田 辰将 徳山工業高等専門学校准教授	2017/6/1 ~ 2018/5/31	16
山口大学理学部サイエンスワールド2017 参加者(総人数)1000名 [内、500名]	山口大学吉田キャンパス(山口市)	新沼 浩太郎 山口大学(院)創成科学研究科准教授	2017/11/12 ~ 2017/11/12	10
第2回広島ジュニアサイエンスフェア 参加者(総人数)500名 [内、300名] 講演:1	広島市青少年センター (広島市)	くや みつお 広島干潟生物研究会事務局長	2018/1/7 ~ 2018/1/7	16
小中学生を対象としたIoTブートキャンプ 参加者(総人数)80名 [内、60名]	徳山工業高等専門学校 (周南市)	原田 徳彦 徳山工業高等専門学校教授	2018/3/23 ~ 2018/3/25	15
広島国際大学 子ども向け体験講座 参加者(総人数)600名 [内、300名] 講演:9	広島国際大学(東広島市)、呉市産業部海事歴史科学館(呉市)	吉野 浩生 広島国際大学保健医療学部准教授	2017/7/15 ~ 2018/3/31	10
サイエンスアカデミー2017 参加者(総人数)5000名 [内、3660名]	防府市青少年科学館 (防府市)	松本 浩 防府市青少年科学館館長	2017/7/15 ~ 2017/7/30	15
体験,制御工学! ~自動運転車を作ってみよう~ 参加者(総人数)25名 [内、15名]	近畿大学工学部 (東広島市)	田上 将治 近畿大学工学部講師	2017/6/1 ~ 2018/5/31	16
小学生のための電子回路工作 ~LED点滅器および電子オルゴールの作製~ 参加者(総人数)200名 [内、170名]	津山市立一宮小学校 (津山市)	西尾 公裕 津山工業高等専門学校教授	2017/8/1 ~ 2017/11/30	15
樹脂封入標本を作ってみよう ~手に取って観察できる標本の形 参加者(総人数)30名 [内、30名]	岡山大学 (岡山市)	門田 充司 岡山大学農学部教授/農学部部長	2017/8/19 ~ 2017/8/19	10
おもしろワクワク化学の世界 - '17山口化学展 参加者(総人数)5000名 [内、3000名]	小野田サンパーク(山陽小野田市)	鬼村 謙二郎 山口大学(院)創成科学研究科教授 実行委員長	2017/8/25 ~ 2017/8/27	15
連射のできるゴム鉄砲を作ろう! ~みんなの知らない工作機械とレーザー加工体験~ 参加者(総人数)60名 [内、60名]	松江工業高等専門学校 (松江市)	奥原 真哉 松江工業高等専門学校技術専門職員	2017/7/1 ~ 2017/12/31	11
木の車を作ってゴムの力で動かそう!! 参加者(総人数)50名 [内、50名]	松江工業高等専門学校 (松江市)	後藤 宏介 松江工業高等専門学校助教	2017/7/1 ~ 2017/12/31	10
光で遊ぼう! ~偏光板と方解石で見る不思議な世界~ 参加者(総人数)80名 [内、40名]	松江工業高等専門学校 (松江市)	須原 唯広 松江工業高等専門学校講師	2017/7/1 ~ 2017/12/31	10
合 計		15件		200万円

- 3 . 科学わくわくプロジェクト

(1) 内容

「科学わくわくプロジェクト」は、マツダ財団と広島大学等が連携して青少年の健全育成と科学技術の振興を目指して実施する事業です。次の時代を担う小学生・中学生・高校生に、考えること、学ぶことにわくわくする体験、正解のない問題に取組みブラックボックスをこじ開けてみる体験といった機会を継続的に提供することにより、科学する心を育てることを目的としています。

「科学わくわくプロジェクト」は、次の特徴を有しています。

- ・現場の教員の議論により生まれたプロジェクトである。
- ・財団と大学の連携事業である。
- ・多様な事業で構成される複合的な事業である。
- ・教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待される。

(2) 連携先

科学わくわくプロジェクト実行委員会

委員長：比治山大学現代文化学部 林 武広 教授

(3) 主要事業

サイエンスレクチャー（中高生を対象とした出張・出前型講座；要請により可能な範囲で社会人等も対象とする）

第1回：2018年2月27日（広島大学附属高等学校 3学年 27名）

- ・講師：広島大学 大杉 節 名誉教授
- ・テーマ：「放射能・放射線」

第2回：2018年3月9日（広島大学附属東雲中学校 3学年 80名）

- ・講師：広島大学 大杉 節 名誉教授
- ・テーマ：「現代を生き抜くための放射能・放射線常識」

ジュニア科学塾（理科好きの中学生が高度な科学内容を学ぶことを通して先端的科学への関心を高め、学ぶ意欲を育む集中講義）

～年間テーマ「科学の窓 数理の世界」

第1回：2017年6月18日（比治山大学6号館）

- ・講師：広島大学 岩崎 秀樹 名誉教授、岡山理科大学 福田 博人
- ・テーマ：「数理の世界 偶然性を科学する」（12名）

第2回：2017年7月16日（比治山大学6号館）

- ・講師：比治山大学 山田 耕太郎 准教授
- ・テーマ：「数理の世界 情報の科学」（8名）

第3回：2017年8月18日（広島電鉄本社）

- ・講師：子ども科学館長 加藤 一孝 他
- ・テーマ：「電車について 広電電車見学」（12名）

第4回：2017年9月24日（広島大学大学院教育学研究科C棟1F生物学実験室）

- ・講師：広島大学 竹下 俊治 教授
- ・テーマ：「生物の数理」（7名）

第5回：2017年10月15日（広島大学東広島キャンパスS棟2階207講義室）

- ・講師：広島大学 網本 貴一 准教授
- ・テーマ：「科学における数理 分子のかたちの規則性」（4名）

第6回：2017年11月25日（広島大学東広島天文台）

- ・講師：広島大学 川端 弘治 教授
- ・テーマ：「天文現象と数理」（14名）

理科ひろば（小中学校理科授業充実のための教員支援としての、小学校高学年理科出前示範授業及び現職教員研修）

- ・講師：比治山大学現代文化学部 林 武広 教授
- ・テーマ：授業実践講座または模擬授業
- ・内容：（5年生）「天気の変化」「流水の働き(防災含む)」「地震防災」
（6年生）「月と太陽」
- ・今年度実施：広島市内・広島県内の小学校 22校57学級（対象児童数1,600名）
広島市教育委員会と連携する（実施校は、広島市教育委員会が希望校を募り、その後の調整と協議によって選定する）。
学校から依頼があれば、可能な範囲でそれに応じる。

(4) 実施額 100万円

青少年健全育成に関する活動の概要

- 1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

第33回(2017年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

工業化社会、情報化社会の著しい進展による社会環境の変化は、国民の社会生活に多様な影響を及ぼしています。中でも青少年の健全な心身の発達を阻む面のあることを認めざるをえません。今日生涯の各段階において、人間形成上あるいは社会生活上、絶えず自ら学習することの必要が叫ばれ、そのための学習基盤の整備充実を進めることが求められておりますが、中でも青少年段階におけるそれは重要であると考えます。

こうした青少年の健全な育成、あるいは青少年期における自らの学習への支援を通して、心豊かに生きることの出来る社会の実現を願い、そのためのすぐれた研究に対し、その一助として費用の一部もしくは全部を助成します。

(b) 助成対象

本財団の設立趣旨である「青少年の健全育成」に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究を対象とします。

対象研究分野： 青少年をとりまく環境 コミュニティづくり ボランティア育成 科学体験
前各号に類する分野

(c) 募集方法

公募

(d) 助成金総額

400万円

(e) 助成件数

5～6件

(f) 助成期間

1年または2年

(g) 募集期間

2017年4月17日～6月30日

(2) 応募状況

締め切りまでに32件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・中部以東	14件(44%)
	・関西以西	18件(56%)
(b) 分野別	・青少年をとりまく環境	19件(59%)
	・コミュニティづくり	5件(16%)
	・ボランティア育成	2件(6%)
	・科学体験	4件(13%)
	・前各号に類する分野	2件(6%)

(3) 助成対象の選出

選考委員会(7月24日)において慎重審議の結果、助成候補として6件が選出され、第31回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 助成金贈呈書の贈呈

2017年10月から11月にかけて申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第33回) 2017年度	第32回 2016年度	第31回 2015年度
応募件数 (件)	32	39	27
助成件数 (件)	6	7	6
助成比率 (%)	19	18	22
助成金総額 (万円)	400	500	500

(地域別状況)

地域	2017年度		2016年度		2015年度	
中部以東 (件)	14	3	20	3	13	5
近畿 (件)	6	1	5	1	4	0
中国・四国 (件)	8	0	7	2	7	1
九州・沖縄 (件)	4	2	7	1	3	0
合計 (件)	32	6	39	7	27	6

(左側数字:応募件数,右側数字:助成件数)

(分野別状況)

分野	2017年度		2016年度		2015年度	
青少年をとりまく環境 (件)	19	2	21	3	21	4
コミュニティづくり (件)	5	1	5	2	0	0
ボランティア育成 (件)	2	1	5	1	0	0
科学体験 (件)	4	2	3	0	3	1
前各号に類する分野 (件)	2	0	5	1	3	1
合計 (件)	32	6	39	7	27	6

(左側数字:応募件数、右側数字:助成件数、分類は審査時)

3. 第33回(2017年度) マツダ研究助成一覧 - 青少年健全育成関係 -

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額(万円)
放射線教育を中心とした総合的理科教育教材の創出	秋吉 優史 大阪府立大学大学院工学研究科准教授	50
学習指導要領の改訂に伴い、全国の学校教育現場において放射線教育を適切に実施することが喫緊の課題となっている。学習指導要領で求められる内容を満たし、放射線の本質について直感的に、的確に理解することが出来、教員への負担が少なく、放射線以外の分野とも関連した発展的学習も可能とするコンテンツを実現するためには、ハードウェア、ソフトウェア共に教育現場の実情に即した開発が必要である。特に、大学の放射線に関する専門家は学校教育現場について現状の把握が出来ていないため、両者の連携によるソフトウェア開発を行う。		
青少年がつくる「ふるさとのまつり」伝統芸能継承活動と地域文化創造 - 地域にくらす子ども・若者組織の「学びのプロセス」に関する研究 -	池水 聖子 一般財団法人鹿児島県青年会館 青年問題研究所事務局長	45
本研究は、鹿児島県の青少年組織の実態の基礎調査をもとに、過疎化が進み地域の担い手育成が急務である中山間地域において、主に伝統芸能継承について青少年組織がどのように関わっているか実態調査を行う。現在、いくつかの青少年組織が伝統芸能に関わっている大隅地域を中心に、2年間で、地域文化創造の取り組みを実践する。青少年組織との協働作業でのワークショップ等を実施しながら、舞台創造、「ふるさとのまつり」を実施する。これらの基礎調査と実践活動から地域文化継承活動への関わりと青少年育成との有効性、地域コミュニティの再生の可能性について明らかにするものである。		
東日本大震災後の被災地における子どもの心身状態に関する研究	柴田 理瑛 東北福祉大学総合福祉学部助教	85
東日本大震災の被災地では、子どもの発達段階にそぐわない言動や暴力的な事例が依然として存在する。これは、大規模災害が中長期に渡って子どもの精神的健康や発達に影響することを示唆している。これまで申請者らは、被災地の保育所等への訪問を通じて、長期的に心理支援を必要とする子どもが存在することを国内外に発信してきた。しかしながら、これらの問題は一般にはほとんど認識されていない。震災から6年が経過し、義務教育までは各自治体等が主導して心のケアを行ったようである。一方、高校生以上になるとこうした機会は格段に乏しい現状にある。発達段階に応じた子どもの心の支援を進める上で、まずは発達段階ごとの支援の現状や課題を整理する必要があるだろう。本研究では、大規模災害後の子どもの心身状態を把握するために、0~22歳までの子どもを教育および支援する教職員などの専門家を対象とした調査を行う。		
幼少期における動くおもちゃものづくり・遊び・学びによる自己肯定感の育成	松永 泰弘 静岡大学教育学部教授	70
本研究で取り扱う開発教材は、不思議と驚きをとまなう独創的な科学技術ものづくり教材であり、その材料のほとんどは木材であるが、機能性材料である形状記憶合金を使用する教材も含まれ、産業界の技術革新の一端に触れ、技術者と同じような創意工夫・試行錯誤をとまなう経験が可能である。本研究では、これまでの研究を発展させ、新学習指導要領、科学技術基本計画、STEM、ESD教育の実施を促進するための研究を行う。子どもたちは、実験から得られる科学的データを設計に生かす探究を行い、試行錯誤によるものづくりを経験する。関心意欲の原動力は、内発的動機づけに変容する興味発達の4段階理論(Showers-of-Emotion Theory)に基づく、教材の持つ不思議さや驚きであり、熱中する子どもたちの姿が出現する。授業実践におけるものづくり・探究活動・研究活動を通して、子どもの変容を明らかにする。		
被災した障害児とその家族の支援ボランティアの養成のためのプログラム開発の研究	肥後 祥治 鹿児島大学教育学部教授	80
大規模自然災害時の障害のある子どもとその家族の支援に関わるボランティアの養成の在り方について取れ組まれた研究は少なく、ほとんど知見も蓄積されていない。しかし、災害弱者である障害者とその家族の支援の問題は、自然災害から逃れられない我が国においては、減災の視点から重要となる。本研究は「被災した障害児とその家族の支援ボランティアの養成のためのプログラム」を作り上げることを目的とした、被災地の現地調査とプログラムの構成と実施とその評価からなる実践研究である。		
特別な配慮を要する子どもに対する周囲の児童生徒の受容度の実態調査と受容度を高める教育プログラムの開発	遠藤 野ゆり 法政大学キャリアデザイン学部准教授	70
発達障がいがある、外国にルーツがあるなど、特別な配慮を要する子どもたちを、他の子どもたちはどう理解をしているのだろうか。多様性に関する理解が深まることによって、子どもたちの受容度はどのように変わるだろうか。本研究では、特別な配慮を要し支援を受ける子どもたちをめぐる、通常学級に在籍する定型発達、マジョリティの子どもたちの理解度に焦点をあて、現状に関する実態調査と、多様性に関する教育の実施をとあわせて、共生社会の実現に向けた現状、課題、方法を明らかにする。		
合 計	6 件	400 万円

- 2 . 市民活動支援

1 . 募集・応募・選出状況

第33回(2017年度)青少年健全育成市民活動支援を以下により実施しました。

(1) 募集

募集要項記載概要は、以下のとおりです。

- | | |
|--------------|--|
| (a) 対象活動 | 青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動
自然とのふれあい ボランティア育成 地域連帯
エコ 国際交流・協力 科学体験・ものづくり |
| (b) 募集地域 | 広島県、山口県 |
| (c) 支援期間 | 単年度支援 2017年4月1日～2018年3月31日の1年間 |
| (d) 支援金総額 | 800万円 |
| (e) 1件当り支援金額 | 10万円～50万円 |
| (f) 募集期間 | 2016年10月14日～2017年1月13日 |

(2) 応募状況

締切日までに110件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- | | |
|---------|---|
| (a) 地域別 | ・ 広島県 49件(44%)
・ 広島市 38件(35%)
・ 山口県 23件(21%) |
| (b) 分野別 | ・ 自然とのふれあい 19件(17%)
・ ボランティア育成 14件(13%)
・ 地域連帯 58件(53%)
・ エコ 4件(4%)
・ 国際交流・協力 8件(7%)
・ 科学体験・ものづくり 7件(6%) |

(3) 支援対象の選出

選考委員会(2017年2月13日、14日開催)での審議の結果、支援候補として、総計32件800万円が選出され、2017年3月17日開催の第28回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 支援金贈呈書の贈呈

- ・ 広島県 2017年4月19日、マツダ株式会社本社で贈呈式・交流会を開催。広島県内の25団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。
- ・ 山口県 2017年4月25日、マツダ株式会社防府工場で贈呈式・交流会を開催。山口県内の7団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。

2. 支援件数の推移

本年度を含む3年間の支援件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および支援件数)

	本年度(第33回) 2017年度	第32回 2016年度	第31回 2015年度
応募件数 (件)	110	119	98
支援件数 (件)	32	33	30
支援比率 (%)	29	28	31
支援金総額 (万円)	800	875	800

(地域別状況)

地 域	2017年度		2016年度		2015年度	
	応募	支援	応募	支援	応募	支援
広島県 (件)	49	15	47	15	28	8
広島市 (件)	38	10	44	13	46	14
山口県 (件)	23	7	28	5	24	8
合計 (件)	110	32	119	33	98	30

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

(分野別状況)

分 野	2017年度		2016年度		2015年度	
	応募	支援	応募	支援	応募	支援
自然とのふれあい (件)	19	4	22	2	15	6
ボランティア育成 (件)	14	5	13	1	14	2
地域連帯 (件)	58	19	57	25	55	16
エ コ (件)	4	1	7	1	5	3
国際交流・協力 (件)	8	2	11	1	5	1
科学体験・ものづくり (件)	7	1	9	3	4	2
合計 (件)	110	32	119	33	98	30

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

3. 第33回(2017年度) マツダ市民活動支援一覧 - 青少年健全育成関係 -

活 動 名	団 体 名	地 域	金 額 (万円)
ここまで出来たよ「くるりん村」！！	ふるさと宮園ピオトープの会	広島県 廿日市市	12
河川敷の整備とサマースクール	江の川流域里川エコネット	広島県 三次市	35
ワクワク森林資源再生プロジェクト。	特定非営利活動法人 やまおこしの会	広島県 山県郡	35
子どもたちへの伝統芸能の継承活動	神村学区郷土芸能保存会	広島県 福山市	25
永田川流域(森・里・川・海)の環境保全・整備プロジェクト2017	永田川カエル倶楽部	広島県 江田島市	10
ぼくたちの道しるべ～違っていてもいいんだよ～ 自閉症スペクトラムの子どもの得意を生かす子育て【家庭療育を進めるプロジェクト】	発達障害親の会 *PEACCH*	広島市	30
青少年の非行・再非行防止による健全育成活動	特定非営利活動法人 食べて語ろう会	広島市	35
「地域全体で子育て・親育ち応援！！」～地元を愛し、お互いに元気になろう～	府中町家庭教育支援チーム「くすのき」	広島県 安芸郡	40
棚田開墾モリモリツアー(日帰りお楽しみ編)	棚田開墾モリモリ倶楽部	広島県 安芸高田市	25
美鈴恵みの森づくりボランティア	美鈴恵みの森づくりボランティア	広島市	17
みんなで創り広げる「オルゴールシアター広島・山口の民話」プロジェクト	多世代交流支援オルゴールシアター実行委員会	広島県 東広島市	40
次世代リーダー育成「将来の夢を描くドリームマップ」を作ろう！ in HIROSHIMA	一般社団法人ひろしまドリームマップ協会	広島市	25
原南生き物ふれあい活動	原南学区青少年健全育成連絡協議会	広島市	10
ホテルと花と砂留と	堂々川ホテル同好会	広島県 福山市	35
教えて！赤ちゃん先生 ～わたしもあなたも大事な命～	ママの働き方応援隊 広島東校	広島県 安芸郡	25
若者と高齢者が共生する街づくり活動	鞆の浦の共生を実行する会	広島県 福山市	20
しごとしとこU18	NPO子どものひろばヤッチャル	広島県 東広島市	21
地域の誰もが集える場～ひねもすようこそ～	ひねもすようこそ	広島市	20
療育を通して地域の障害児福祉を耕していく一つの試み(重症心身障害児を対象とした宿泊型の動作法訓練会の実施)	福山動作法訓練会	広島県 福山市	20
江田島を基点としたアートと哲学による青少年育成	ELCAP(エルカップ: Etajima x Local x Culture x Art x Philosophy)	広島県 福山市	35
『親子で体験！五感で実感！大きな発見』宮島の自然と環境を楽しもう！&大学生ボランティア育成事業	みやじま未来ミーティング	広島市	25
絵本と紙芝居の地域文庫	絵本と紙芝居の地域文庫	広島市	25
広島県居住の外国人に対する日本語学習機会の提供と異文化理解を深める交流	日本語教室ピース	広島県 東広島市	10
広島と石巻の被災地を結ぶ学生ボランティア交流会(災害の教訓を伝承する活動を通して)	高校生災害復興支援ボランティア派遣隊	広島市	25
出前絵本たねまき広場	絵本たねまき塾	広島市	20
子ども時代をもっと楽しむ体験づくり	岩国市立通津小学校おやじの会	山口県 岩国市	15
東滝の謎に迫る！ ～わが町に「ため池」はあるのか？～	滝びとの会	山口県 山口市	25
下三原上神楽舞伝承子どもプロジェクト	下三原上神楽舞伝承活動実行委員会	山口県 萩市	25
「にっぽんのこころ」を育む宿泊型青少年開発事業	公益社団法人防府青年会議所	山口県 防府市	25
板三夏祭り&板三もちつき大会&子供会と敬老会のコラボ	板持3区自治会	山口県 長門市	15
創作神楽による青少年健全育成	創作・風鎮神楽会	山口県 防府市	50
神楽ふれあい教室	NPO法人まなびデザインラボ	山口県 周南市	25
合 計	32件	800万円	〔 広島県 25件 620万円 山口県 7件 180万円 〕

- 3 . 感動塾・みちくさ

感動塾・みちくさの実施概要は、次のとおりです。

(1) 内容

「感動塾・みちくさ」は、子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育むこと、合わせて科学や技術への興味、関心を高めることを目的とした事業であり、平成10年度から実施しています。

(2) 共同開催

(公財)広島市文化財団との共催。

(3) 開催場所・開催日等

広島市三滝少年自然の家

・2017年8月22日～8月24日

・テーマ：「ふしぎ 発見 感動体験 ～自然(水)とエネルギー～」

・ねらい 実験、工作などの直接体験をする。

科学の楽しさや不思議さを探求し、発見や感動を獲得する。

課題解決へ向けてのプロセスを大切に、問題解決能力を身に付ける。

異年齢集団における生活の中で、仲間との協力や、協調することの大切さを学ぶ。

・参加者：小学4～6年生 48名

広島市青少年野外活動センター

・2017年8月18日～8月20日

・テーマ：「発見！感動！～いきものいっぱい おもしろ里山探検～」

・ねらい 豊かな自然に親しむとともに、期間を通して初対面の友だちやスタッフと寝食を共にすることにより、協調性・自主性や思いやりなどを養う。

自然観察を通して、自然の事物・現象について理解を深め、自然科学分野への興味関心を喚起する。

・参加者：小学3～4年生 64名

広島市似島臨海少年自然の家（台風接近のため、中止。以下は事業計画の内容）

・2017年9月16日～9月18日

・テーマ：「塩と潮の不思議」

・ねらい 実験等を通して、科学への関心を高めるとともに、科学的な見方や考え方を養う。

似島の海を舞台に自然に親しみ、自然に対する興味を深めるとともに、自然現象を科学的に捉える。また、自然と人間との関係を考える。

集団生活において必要なコミュニケーション能力を習得する。

・参加者：小学4～6年生 56名（予定）

(4) 実施額

130万円(マツダ財団負担分)

- 4 . スタートラインプロジェクト

スタートラインプロジェクトの実施概要は、次のとおりです。

(1) 内容

「スタートラインプロジェクト」は、被虐待児等の自立を支援することを目的とした事業です。子どもシェルター「ピピオの家」（緊急避難場所）および「はばたけ荘」（自立援助ホーム）を開設・運営しているNPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実等を支援する事業を、平成25年度から実施しています。

(2) 連携先

特定非営利活動法人ピピオ子どもセンターとの連携。

(3) 主要事業

被虐待児等に対する学習支援や就職・自立の支援、また、スタッフ・ボランティアスタッフのスキルアップのために、研修への参加や養成講座の開催等に対する支援を行った。

被虐待児等の成長を支援するプログラム

・実施概要：「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者に対する、マナー講座、図書購入、就業活動のための費用支出、自立支援のための支出、誕生会やクリスマス会などの行事の開催などを行った。

・対象者：今年度の「ピピオの家」の入居者 7名、「はばたけ荘」の入居者 5名

スタッフの能力開発を支援するプログラム

「第7回NPO法人ピピオ子どもセンターボランティアスタッフ養成講座」

・実施概要：スタートラインプロジェクト実行委員会（ピピオ子どもセンター・マツダ財団）として、以下のとおり共催した。

2017年6月 7日 ガイダンス及び子ども担当体験報告

2017年6月14日 居場所のない子どもたちとの関わり方

2017年6月21日 発達障害・愛着障害

2017年6月28日 子どもとの関係づくりについて

2017年7月 5日 シェルターに関わる法制度（民法、児童福祉法など）

2017年7月12日 「ピピオの家」「はばたけ荘」って、どんなところ？

2017年7月19日 虐待のある環境で育つ子どもの実情(仮)

2017年7月26日 思春期の子どもの心理

・参加者：一般 9名、大学生 3名の計12名が受講。

このうち9名が全8講を修了し、さらにこのうち8名が、相談・面接を経て、ピピオのボランティアスタッフとして登録した。

その他、ピピオ子どもセンターの実施する以下の活動を支援した。

2017年11月4日～5日 子どもシェルター全国ネットワーク会議2017（沖縄）参加

2017年12月2日～3日 日本子ども虐待防止学会（JaSPCAN）第23回学術集会ちば大会参加

(4) 実施額

100万円(マツダ財団負担分)

- 5 . 第 3 6 回 講 演 会

青少年健全育成事業の一環として毎年講演会を実施しています。本年度は講師に作家の林真理子氏を迎え、「母からもらったもの」と題して開催しました。講演の案内は県・市の教育委員会やPTAへ行い、また新聞・ミニコミ誌等を通じて広く聴講希望者を募りました。

当日は、10代20代を始めとする幅広い年代の1,300名を超えるお客様にご来場いただき、会場はほぼ満席となりました。林氏のご家族の話、本や作家に対する思い、またこれまで日常をどのように考えて行動してきたかをありのままにお話しされました。

来場者からは、「自分が母親になった時、どのように育てるべきかよく分かった。」「子どもへどんな生き方を見せるのか考えたい。」「背伸びしないと成長しない、というモットーが印象に残った。」といったお声を多数お寄せ頂き、大いに満足していただけたものと推察しています。

講演会の概要は、次のとおりです。

- (1) 講 師： 林真理子氏（作家）
- (2) 演 題： 母からもらったもの
- (3) 開 催 日： 2017年11月15日(水)
- (4) 開催場所： 広島国際会議場 フェニックスホール
- (5) 聴講者数： 1,300名

- 6 . 大学寄付講義の実施概要

社会人、企業人として必要な視点・能力を醸成すべく、「柔らかな社会」「地球の有限性」「人類愛」「国際化・グローバル化」を共通キーワードとして、地域の大学に対する寄付講義を実施しました。マツダ財団は各講座の企画、講師調整、講義準備、講座運営を担い人材、ノウハウ、コンセプト、講義等の提供を行いました。また、マツダ財団のネットワークや人的資源を活かした講師派遣も行いました。

(1) 対象学生と目的

工学系学生 (今年度開講なし) 近年、社会は高度かつ複雑に変化し、技術も多様な側面を持ちつつあります。次代の技術者として必要な社会における技術の多角的な視点(環境・情報・国際化・技術者倫理等)について、次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。

人文系学生 社会の仕組みを理解するとともに、現在の日本の課題、世界の課題を社会科学的視点によりとらえ、これから必要とされる「柔らかな社会」での生活者、社会人としての役割やビジョンについて次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。

(2) 特徴

複数の協力機関からの講師陣

キーワードによる講義の一貫性の保持

大学毎の特徴づけ

学生と講師の双方向授業

(3) 実施講義

実施内容は、以下のとおりです。

大学名	講義科目	期間	講師所属機関	特徴	開講年度
広島修道大学	キャリア形成特殊講義(ボランティア活動)	2017 5.20,5.27 集中講義 夏休み実習	・ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART ・(特活)IMAGINUS ・比治山大学 ・(特活)ANT-Hiroshima ・(特活)これからの学びネットワーク	広島県内単位互換科目。講義と実地研修とを組合せた形で、ボランティア理解、ボランティア活動に必要なリーダーシップの育成・チームワーク力の醸成、ボランティア活動参加による感動体験を得ることを目的として実施。20名が7箇所の事業所や団体でボランティアとして活動した。	2000年

この他、以下の講座へ講師派遣を行いました。

広島大学大学院先端物質科学研究科「コミュニケーション能力開発講座(ディベート演習)」

広島大学大学院応用化学専攻「ディベート実践演習」

県立広島大学・庄原キャンパス「キャリアビジョン」(グローバルビジネスと商品企画)

県立広島大学・広島キャンパス「キャリアビジョン」(グローバルビジネスと商品企画)

尾道市立大学「キャリア形成入門」(大手製造業の業務内容と実態)

- 7 . 若者×ツナグバ

(1) 内容

「若者×ツナグバ」は、高齢化社会や格差社会が進む状況下で、青少年の最終ステージともいべき「社会人になる直前の若者」「社会に出て間がない若者」が、今の社会に希望を持ち、自立していくことを支援する事業で、本年度より開始しました。

若者一人ひとりが、社会情勢を正しく認識したうえで、多様な考え方から自分が納得のできる生き方を見つけ、その潜在能力を高め、選択肢を増やし、希望につなげていくことを目的とし、「対話」「表現活動」「居場所づくり」等の活動を進めています。

(2) 主要事業

本年度は、「特定非営利活動法人 ほしはら山のがっこう」(三次市)、「特定非営利活動法人 三次おやこ劇場」(三次市)、「府中町地域活動青年団体 志楽蝶」(府中町)の3団体と連携して実施した。

ほしはら山のがっこう「大人の林間学校」

- ・若者の対話の場をつなく、若者と自然をつなく、若者と地域をつなく、を目的に、6月～11月の4回にわたり、元小学校の木造校舎を利用した交流施設「ほしはら山のがっこう」を拠点に、参加する若者自らも企画した、仲間づくりのプログラム、自然体験プログラム、他団体と共同のイベントを実施した。
- ・参加者のべ108名。

三次おやこ劇場「Folks Tea Booth 自分の手で居場所をつくろう！」

- ・子育てスペースとして運営されていた KADOYA に若者をつなごうと、若者がいつでも立ち寄ることができ、本音で自由に語り合えるオープンカフェ「Folks Tea Booth」の立上げを目指し、手作りの石窯製作に取り組んでいる。また、歌とトークで世代を超えたつながりをつくろうと、シンガーソングライターを招きライブを2回実施した。
- ・石窯作り参加者のべ300～350名。ライブ参加者62名。

志楽蝶「青少年の居場所づくり」

- ・青少年の新たな居場所として、志楽蝶事務所兼活動場所「志楽蝶 BASE」を設立した。これにより、他世代交流を活発にし、コミュニケーション能力、リーダーシップ能力を含む個々人のスキル向上を実現し、中高生育成、新たなコミュニティ開拓、延いては地域発展に繋げていこうとしている。また、「府中町に若い風を」とのスローガンのもと、これまで実施してきたさまざまな地域支援活動の更なる推進に加え、ヒーローショー「ツバキマン」公演を広く展開し、団体の認知の促進、活動拠点の府中町のPRを推し進めようとしている。
- ・現在22～23名で活動している。志楽蝶 BASE という拠点があることで新メンバー加入もスムーズに進めることができている。

(3) 実施額

150万円(マツダ財団負担分)

管理事項の概要

- 1. 役員等に関する事項

1. 平成29年3月31日現在の役員・評議員の名簿

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
理 事 長	代表理事	非常勤	金 井 誠 太	マツダ株式会社 代表取締役会長
専務理事	代表理事	非常勤	吉 原 誠	マツダ株式会社 執行役員
常務理事	業務執行理事	常 勤	魚 谷 滋 己	公益財団法人マツダ財団 事務局長
理 事		非常勤	上 田 宗 岡	上田宗箇流 家元
理 事		非常勤	香 川 寛 治	公益財団法人広島市文化財団 常務理事
理 事		非常勤	岡 谷 義 則	株式会社中国新聞社 代表取締役社長
理 事		非常勤	高 橋 超	広島大学 監事
理 事		非常勤	平 谷 優 子	弁護士
理 事		非常勤	山根 八洲男	広島大学大学院工学研究院 特任教授
(五十音順・敬称略)				
監 事		非常勤	高 橋 義 則	公認会計士
監 事		非常勤	前 田 真 二	マツダ株式会社 財務本部本部長
(五十音順・敬称略)				

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
評 議 員		非常勤	安 藤 周 治	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター 代表理事
評 議 員		非常勤	大 杉 節	広島大学宇宙科学センター 特任教授
評 議 員		非常勤	越 智 光 夫	広島大学長
評 議 員		非常勤	河 原 能 久	広島大学大学院 工学研究科長・工学部長
評 議 員		非常勤	小 柴 是 睦	公益財団法人中国電力技術研究財団 専務理事
評 議 員		非常勤	佐 藤 次 郎	一般財団法人日本語教育振興協会 理事長
評 議 員		非常勤	進 士 正 人	山口大学大学院 理工学研究科長・工学部長
評 議 員		非常勤	竹 林 守	マツダ株式会社 名誉相談役
評 議 員		非常勤	中 村 健 一	県立広島大学長
評 議 員		非常勤	長 尾 ひろみ	公益財団法人広島県男女共同参画財団 理事長
評 議 員		非常勤	農 沢 隆 秀	マツダ株式会社 技術研究所 技監
評 議 員		非常勤	吉 田 総 仁	広島大学大学院 工学研究科特任教授
評 議 員		非常勤	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社 相談役
(五十音順・敬称略)				

2. 役員等の異動状況

- ・佐野 庸治氏は平成29年6月19日評議員を退任し、河原能久氏が平成29年6月19日評議員に選任された。
- ・金井 誠太、吉原 誠、上田 宗岡、岡谷 義則、平谷 優子、高橋 超、山根 八洲男の7氏は、平成29年6月19日理事に再任された。
- ・魚谷 滋己氏は平成30年3月31日に理事を退任し、山内 真氏が平成30年4月2日理事に就任した。

- 2 . 職員に関する事項

役職名	名 前	主たる担当職務
事務局 長	魚 谷 滋 己	・事務局統括
事務局 長代理	六 鹿 彰 吾	・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・財団の普及・啓発に関する事業計画の策定及びその実施に関する事項
事務局 長代理	明 木 英 昌	・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・事業計画・収支予算の策定及び財務・会計に関する事項 ・大学講義開講に関する事項
事務局 長代理	横 山 孝	・理事会、評議員会等の運営に関する事項 ・広報等に関する事項
事務局	浅 原 真 実	・財務・会計に関する事項 ・講演会開催に関する事項

- 3 . 理事会・評議員会等、主な活動事項 (理事会)

会 議 名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第 2 9 回理事会	平成29年5月29日	第1号議案 平成28(2016)年度事業報告及び決算承認の件 第2号議案 理事候補 8 名推薦の件 第3号議案 監事候補 2 名推薦の件 第4号議案 第 1 1 回評議員会招集に関する件 [報告事項] 1)2017年度科学技術振興関係事業助成の件 2)職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 3 0 回理事会	平成29年6月19日	第1号議案 代表理事選定の件 第2号議案 理事長及び専務理事選定の件 [報告事項] 公益法人の事業報告書等の提出書類	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 3 1 回理事会 (決議の省略)	平成29年9月25日	第1号議案 第 3 3 回(2017年度)科学技術振興及び青少年健全育成研究助成対象決定の件 第2号議案 第 3 4 回(2018年度)青少年健全育成市民活動支援計画決定の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 3 2 回理事会	平成30年3月16日	第1号議案 平成 3 0 (2018)年度事業計画及び収支予算承認の件 第2号議案 第 3 4 回(2018年度)市民活動支援対象(青少年健全育成関係)承認の件 第3号議案 選考委員 3 名選出の件 第4号議案 事務局長交代の件 第5号議案 理事候補 1 名推薦の件 第6号議案 常務理事及び業務執行理事選定の件 第7号議案 第 1 2 回評議員会招集に関する件 [報告事項] 職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(評議員会)

会 議 名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第 1 1 回評議員会	平成29年6月19日	第1号議案 平成 2 8 (2016)年度決算承認の件 第2号議案 理事 8 名選任の件 第3号議案 監事 2 名選任の件 第4号議案 評議員 1 名選任の件 [報告事項] 1)平成 2 8 (2016)年度事業報告の件 2)平成 2 9 (2017)年度事業計画及び収支予算の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(当年度の主な活動 - 上記会議以外)

活動項目	実施年月日	概要
第33回マツダ事業助成候補の募集	平成 29.4~5	科学技術振興関係
第33回マツダ研究助成候補の募集	29.4~5	科学技術振興関係
第33回(2017年度)青少年健全育成市民活動支援 贈呈書の贈呈	29.4~6	青少年健全育成関係
科学わくわくプロジェクト「サイエンスレクチャー」開催	29.4.19、4.25	助成34団体に対し、贈呈書を贈呈
科学わくわくプロジェクト「ジュニア科学塾」開催	30.2.27、3.9	広島大学等との連携事業
科学わくわくプロジェクト「小学校理科ひろば」 大学講義(広島修道大学)	29.6.18、7.16、8.18 9.24、10.15、11.25	広島大学等との連携事業
平成29年度選考委員会(科学技術振興関係)	通年 29.5.20、5.27	授業実践講座または模擬授業
平成29年度第2回選考委員会(青少年健全育成関係)	29.7.28、7.29	「ボランティア活動」(広島県内単位互換科目)
「感動塾・みちくさ」実施	29.7.24	第33回マツダ研究助成対象の審議・選出
第33回マツダ研究助成贈呈書の贈呈	29.8.18~8.20 8.22~8.24 9.16~9.18	第33回マツダ研究助成対象の審議・選出 (公財)広島市文化財団と共催
第34回(2017年度)青少年健全育成市民活動支援候補 の募集	29.10~30.1	台風接近のため中止 助成対象者に対し、贈呈書を贈呈
第36回講演会	29.11.15	広島県、広島市及び山口県の青少年健全 育成主管部門等を通じて告知 講師：林 真理子氏 演題：「母からもらったもの」
平成30年度第1回選考委員会(青少年健全育成関係)	30.2.13、2.14	第34回市民活動支援対象の審議・選出

- 4 . 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項

宛先	申請等年月日	申請事項等
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成29.6.30	事業報告等の提出
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成29.7.17	理事、監事及び評議員変更の届出
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成30.3.27	事業計画書等の提出

- 5 . 登記に関する事項

登記先	登記年月日	登記事項
広島法務局	平成29.6.30	理事、監事及び評議員の変更登記 ・平成29年6月19日 下記7氏 理事を重任 金井 誠太、吉原 誠、上田 宗岡、岡谷 義則、平谷 優子、 高橋 超、山根 八洲男 ・平成29年6月19日 浜中 典明氏 理事を辞任 ・平成29年6月19日 香川 寛治氏 理事に就任 ・平成29年6月19日 高橋 義則氏 監事を重任 ・平成29年6月19日 藤本 哲也氏 監事を退任 ・平成29年6月19日 前田 真二氏 監事に就任 ・平成29年6月19日 佐野 庸司氏 評議員を辞任 ・平成29年6月19日 河原 能久氏 評議員に就任

- 6 . 附属明細書

平成29年度(2017年度)事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。